

## ICENETの精神

日本国憲法の中で、「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚」し、「平和を維持し、～ 全世界の国民が、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」とともに「日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓」っている。

さらに、第二章 「戦争の放棄」では、「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」となっている。

しかし、今、世界の紛争地域において、日本に求められつつある役割は、この「武力による威嚇又は武力の行使による、国際紛争の解決」にほかならない。

国際社会の様々な圧力により日本は、もはや国の憲法を守ってはいられなくなっているのである。

憲法の解釈をここで云々するつもりはない。しかし、このままの状態が続くとなし崩し的に、少なくともこの日本国憲法を制定した時の精神を日本人が忘れることを危惧する。さらに、経済的な見方をすれば、1991年のイラクのクウェートへの侵攻の際、日本が負担した1兆3千億円で明らかなように「武力の行使による、国際紛争の解決」は、究めて我々にとって高価である。

ICENETは、日本国憲法の精神を世界の理想として尊重するとともに、国際社会の中で日本人が明確な貢献を行うために、第三の道を提供することを目的として設立する。

- ICENETは、軍事手段を目的とした日本からの人的、資金的援助が唯一、最善、最後の紛争解決の方法と見なす必然性はないと考える。
- 私達日本人にとっての世界平和への貢献は、紛争が悪化し大きな武力衝突が起こる前に、焦点を当てるべきである。
- 海外の紛争調停者や政治的リーダーと協力し、地域の当事者にコンサルテーションを提供し、共に平和への道を探ることに協力する。
- 当事者の多くが、話し合いを続けている限りにおいて、大きな紛争が回避または延期される。そして、その手段の行使が、既に我々にとっての目的であり勝利である。

## 日本国憲法 前文

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵託を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであって、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従うことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立とうとする各国の責務であると信ずる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓う。

## 第二章 戦争の放棄

第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

(2) 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

## THE CONSTITUTION OF JAPAN

We, the Japanese people, acting through our duly elected representatives in the National Diet, determined that we shall secure for ourselves and our posterity the fruits of peaceful cooperation with all nations and the blessings of liberty throughout this land, and resolved that never again shall we be visited with the horrors of war through the action of the government, do proclaim that sovereign power resides with the people and do firmly establish this Constitution. Government is a sacred trust of the people, the authority for which is derived from the people, the powers of which are exercised by the representatives of the people, and the benefits of which are enjoyed by the people. This is a universal principle of mankind upon which this Constitution is founded. We reject and revoke all constitutions, laws, ordinances, and rescripts in conflict herewith.

We, the Japanese people, desire peace for all time and are deeply conscious of the high ideas controlling human relationship, and we have determined to preserve our security and existence, trusting in the justice and faith of the peace-loving people of the world. We desire to occupy an honored place in an international society striving for the preservation of peace, and the banishment of tyranny and slavery, oppression and intolerance for all time from the earth. We recognize that all peoples of the world have the right to live in peace, free from fear and want.

We believe that no nation is responsible to itself alone, but that laws of political morality are universal; and that obedience to such laws is incumbent upon all nations who would sustain their own sovereignty and justify their sovereign relationship with other nations.

We, the Japanese people, pledge our national honor to accomplish these high ideals and purposes with all our resources.

## CHAPTER II. RENUNCIATION OF WAR

Article 9. Aspiring sincerely to an international peace based on justice and order, the Japanese people forever renounce war as a sovereign right of the nation and the threat or use of force as means of settling international disputes.

In order to accomplish the aim of the preceding paragraph, land, sea, and air forces, as well as other war potential, will never be maintained. The right of belligerency of the state will not be recognized.